



# カナダ母子留学 2016年夏

佐竹淳子

家族に甘えて家にこもりがちな小学6年生の息子のことを難波さんに相談したところ、思いがけずカナダ親子留学を勧められ、この夏行って来ました。息子はバンクーバーのブリティッシュコロンビア大学(UBC)のキャンパスで2週間のサマースクール、私はホームステイしながら別の語学学校に通いました。その後、夫や娘と合流し、カナディアンロッキーを9日間、旅行しました。



出発当日は久々の海外で私の方が緊張していました。カナダに到着して心配していた入国審査も無事終わりゲートを出たら、すぐに息子とはお別れでした。息子は大学の寮へ、私は空港からそのまま語学学校、ホームステイ先へと案内されました。ホームステイ先は豪華なお宅で、3人のかわいいお子さんがいて、とてもにぎやかでした。ホストファミリーとは滞在期間中楽しく過ごせました。環境が変わった事でとてもリフレッシュ出来ました。

息子とは留学中、一度だけ会う機会がありました。短期間で明らかにやせてやつれていました。普段から車酔いしやすく、着いて早々長時間バスでの移動や、食事や環境の違いがつらいと涙ながらに話していました。一方、普段和食を嫌がる息子ですが「和食が食べたい」と言って日本の食や環境の良さを再認識しているようでもありました。

英語を全くしゃべれない息子ですが、サマースクールの間、言っている事をおおよそ理解し意思疎通がはかれたらしく、国籍、年齢の違う人々と交わられた事は自信につながったと思います。

バンクーバー留学後は、レンタカーでカナディアンロッキーを移動して回りました。カナディアンロッキーは自然のスケールが大きく、現実とは思えないほどの景色でした。グリズリーベアやエルクなど野生動物を間近で見たり、大氷河を歩いたり、熊やオオカミが出没するキャンプ場でテントに宿泊したりとあまり経験できない事がたくさんできました。

中でも印象に残っているのは、レイクルーズから6時間かけて山中をトレッキングして、山小屋「スコークーロッジ」に泊まった事です。大自然の中の小さな小屋ですが、おいしい食事などで知られ、地元の人でもなかなか泊まれない場所だそうです。宿泊客からは、子ども連れの日本人が来ている事に驚かれました。ロッジには電気も水道もありません。食事はラウンジで全員が同じテーブルを囲むスタイルで、子どもたちには全員大人の外国人という中で食事は貴重な経験だったと思いますし、私もカナダ人との会話が楽しく忘れられないひと時でした。トレッキングでは行きと帰りで違うルートを通り素晴らしい景色を楽しみました。特にスコークーレイクの水の青さには驚きました。いつかまた行ってみたい所です。



ハブニングや大変な事もたくさんありましたが、素晴らしい経験になりました。帰国後、子どもたちに目に見える変化はありませんが、多くの事を得て大きく成長したと確信しています。

ハブニングや大変な事もたくさんありましたが、素晴らしい経験になりました。帰国後、子どもたちに目に見える変化はありませんが、多くの事を得て大きく成長したと確信しています。



私がこの国に来てから早や2年と数か月が経ちました。最近、自分の中での時間の流れが少し狂っているのではないかと、と内心焦る瞬間が増えました。事実、私がこの国を訪れ、最初の頃に抱いていた向上心なるものはどこに置き忘れてしまったのか、今の自分には少しも見当たりません。このような心境のせいかな、私の中での時間の流れが以前より速度を増したのではないかと感じ、また時間という概念は、重圧にも似たものへと変わってきています。我々留学生は、自分の在学期間と自らの語学力をどうしても比例させ考えてしまう時が多々あります。私も既に留学生の中では古株にあたりますので、日常生活や雑談程度の会話には困らなくなりました。しかし、そのせいかな、どの世界や業界にもよくある“慣れ”というものによって、初心を忘れさせるといった恐ろしい病のようなものを患ってしまいました。私は、こう考えます。慣れというものは、新しい世界に飛び込み、そこにただ溶け込む分には無くてはならないものですが、そこで更に上を目指すなら、また自分をもっと高めたいなら、慣れることよりも不慣れでありながらも成長しようともがき続けることの方が大切である、と。そしてこのことが、今の私にとっては最も必要なものであると考えます。

ところで、前文では少しばかり自虐的になってしまいましたが、決してネガティブなものばかりが留学ではありません、むしろ私自身、この国に来たことによって本当の自分と向き合うことができ、そして変わろうと努力を尽くすことができました。そして、この国で得たものは決して日本では手に入れることはできないものばかりであったと今回のNZ留学記を書くにあたり、一度深く留学生生活を思い返したとき、改めて気が付きました。それら手に入れたものとは、自主的に何かアクションを起こそうとする行動力、たとえ辛くても貫こうとする忍耐力のような、いわゆる己の芯となるものであったと思います。これらは、日本に居て、他の人に合わせたり、顔色を伺ったりと規格型の日本人になるためのプログラムを受けていたら決して得ることはできなかったのではないかと私はこの国に来て自分を変えたことによりそう確信しました。

改めて、私はこの国に留学したことを本当に正解であったと心から思います。この国では生きていくために努力することを普通のことだと感じます。また、何ごとにも恐れを感じなくなります。そして、これら留学によって得られるものは、英語の上達よりも素晴らしく価値あるものだったということを知りました。



河森天開 河森正治氏(天開父) 早田義史

難波様

こんにちは。よいお天気ですね。一昨日夫に会ってオークランドでの話を聞くことができました。限られた時間の中だったとはいえ、願ってもない環境の中で、良い方達に支えていただきながら、積極的に友人をつくり、勉強にもサッカーにも前向きに取り組んでいることがよくわかったということで、私も大変嬉しく思いました。LBCの先生、アミカルのChiakiさんもJinさんも口を揃えて「天開はとてもよくやっている」と言って下さっていたというのを聞いて、大変安堵しました。日本とは教育に対する考え方が根本的に違い、当然システムも全く違うこと、そもそも人生観が根本的に違うという話が興味深かったです。親の考えで小1からリースクールを選択し、日本の教育制度にあえて乗せなかった天開が、パズルのピースがはまるように順応できたのも納得がいきました。もちろん難波さん、アミカルさんの的確なサポートがあってこそです。この先もよろしくお願致します。本日Jinさんから3学期の成績表と個人面談のレポートが送信されて来ました。「本当によくやっているんだなと感心しています。」とお伝えください。一つだけ確認したいのは、数学がLow Achievedですが大丈夫かな?ということ。夫からは、他の日本人留学生から教えていただきながら頑張っているようだ、と聞いたのであまり心配はしていませんが念のため確認したいです。よろしくお願致します。河森天開(母)



## Dear Michi-san



Congratulations on Hino-chan's marriage and thank you for your mail. How nice that they will be living in Canada. Canada is a fantastic country. Last month Åke and I visit Cape Breton. We have Canadian friends from Tokyo who moved back to Canada. The Dunkles were also there. Louise got married last year in Abisko very north in Sweden. They live in Umeå. Marcus with family, 2 girls 10 and 7, live in Luleå which is more north than Louise. Jens with family, 1 girl 8 years, live in Malmö which is only 50 km away. Åke and I, we are fine and keeping us busy with different projects. We will try to come to Tokyo in April and I will let you know when we will be there. Have fun in UK. Hope to see you soon in Tokyo. Take care. Åke send his regards and Jens who is visiting us Britta

## My Dearest Michi



My heart leaped with joy when I found your details on the internet. I always think about you and would love to hear from you and see you again. I am so happy you are still in touch with Noriko and Ken, please send me their address, I often think about them. Luca is 17 years old and wants to study Theoretical Physics he is doing 4 A levels and Sophie is 15 she is doing her GCSEs and is predicted very high grades too. Both children are studying Japanese at school! They love everything Japanese, after the cultural legacy that Reiko left in our house and the wonderful Japanese comic art culture and food, of course! Everything Japanese is wonderful. Reiko has 3 children! Her girl is about 7 and twin boys of about 2 years old, she works full time and is very very busy. One of these days we get together again and it will be wonderful. A very big hug to you, Carla Ashworth

## Dear Michi-san



Indeed I did get Megumi's one call, just as I was locking the front door to leave which I did after hanging up with her. I am not sure of my schedule for the time you mentioned in your email of your plan to be in England. Some American friends are deciding whether or not to come here in October and I will be going to visit Tobie later in October. It would be good to meet up while you are in London - maybe I can come up to London for lunch with you one day. Let me know when your plans are made so we can try to work something out.



Here is a picture of us in Tobie and Chris's house in Luxembourg. Tobie, Henry age 5 1/2 on her lap, Peter age 14, Georgia age 11, Marion age 101. Hope you had a good time in the UK.

I certainly did while visiting the family. Love from Marion

## Dear Michi



ご無沙汰しております。ニュージーランドでインターンシップを経験してから、日本に帰国する予定ですが、いまだにニュージーランドで就職し、永住権を取り、日本で中途採用で就職するか、来年、半年ほど経験を積んでから帰国しようかと悩んでいます。永住権をとるとおそろしく長くても28歳になるまでニュージーランドで過ごすことになり、それは自分にとって大きな分岐点となるので、すぐに決断できないでいる次第です。川嶋良尚

## Dear Michi



5月29日には私の講演会に参加していただき本当に有難うございました。日本とブラジルの交流に役立つ事が有れば何でもお手伝いします。これからも宜しくお願いいたします。佐藤フランシスコ紀行(ブラジル漫画協会創始者)

